

令和4年3月11日

ロシアのウクライナ侵攻を非難する

核兵器廃絶・平和建設国民会議
(略称 KAKKIN)

事務局長 岩附 宏幸

2月24日にロシアがウクライナに侵攻した。当初、ロシアのプーチン大統領はウクライナ東部のロシア系住民が虐殺されているからと言い、最近ではウクライナがロシアに対して核攻撃の意図を持っていると言って攻勢を強めている。しかしそのような事実はない。ロシアがウクライナに侵攻する大義名分が全くないことは明らかだ。加えてロシア国防相はウクライナの軍事拠点のみ攻撃していると語っているが、現実は無差別攻撃であり多くの市民に死傷者が出ている。

こうしたロシアの一連の行動は、武力行使を禁じる国連憲章第2条4項に違反し、武力による他国主権の侵害や他国領土の占領を禁じる国際慣習法にも違反することはもちろん、まさに約90年前のナチスドイツの手口と同様であり、侵略であって許しがたい。言葉を極めて非難する。

さらにロシアは原子力発電所への攻撃という暴挙に出た。3月4日にはザポロジエ原子力発電所にロケット攻撃を仕掛け、10日にはチェルノブイリ原子力発電所の外部電源を切断した。このような行動は重大な結果をもたらす危険極まりないことであり、正気の沙汰ではないというほかはない。

これに関連して看過できないことは、鳩山元首相をはじめ「原子力発電所は戦争になれば狙われる。だから無くさなければならぬ」との趣旨の発言をする人がいることだ。今回のことで非難されるべきは、原子力発電所を攻撃したロシアであって、発電所の存在そのものではない。確かに戦争になれば原子力施設が狙われるということが現実起きた。だからといってその存在自体を否定するのは、あまりに短絡的ではないか。

侵攻開始から2週間が経つ。首都キエフをロシア軍は3方向から包囲すると伝えられているが、これ以上の市民の犠牲があってはならない。即時停戦とロシア軍の撤退を強く要求する。

以上